

生態系と人と水産業のつながり

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷津, 明彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009789

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



生態系と人と水産業のつながり

北海道区水産研究所長 谷津 明彦



平成23年に旧北海道区水産研究所と旧さけますセンターが統合され、新たな北海道区水産研究所としてスタートしてから3年が過ぎました。近年我が国では、地球温暖化の影響を含む海洋環境の変化や漁獲量の減少に加え、消費者の魚離れが進んでいます。また、北海道周辺ではオホーツク海側の海域での漁獲は好調ですが、太平洋沿岸のサケの来遊数は減少し、日本海側においては冷水性魚類を対象とした漁業が全般的に低調であるなど、地域によってかなり状況が異なります。

一方、世界に目を向ければ、将来、確実視される人口爆発への対応として、食料の持続的な供給体制の構築の必要性が叫ばれており、実際に現時点においても水産物への旺盛な需要による価格の上昇が見られています。

漁業はもとより養殖業も海や河川の生態系に支えられ、その生産力に大きく依存しています。この生産力は、埋め立てなど様々な人為的影響や地球規模での気候変動に加え、漁業活動の影響を受けます。北海道周辺は日本の他の地域に比べて自然環境が良く保全されていますが、河川を中心として改善すべき状況も残されており、植林など生態系の機能修復を継続する必要があります。その一例として、石狩川では魚道整備などの環境修復が進み、上流域におけるサケ自然産卵資源の回復を目的とした放流を

行った結果、サケの自然産卵が増加しています(本誌13号)。また、これまで、日本のサケ資源はほとんどが人工ふ化放流魚に支えられていると考えられていましたが、最近の当所の研究により、回帰魚に占める野生魚の割合は年変動があるものの2割を超える河川もあり、ふ化放流由来の親魚の回帰が少ない場合の保険的な役割を担っていることが明らかにされました。このため、野生魚の保全を含めた様々な対策により、サケ資源の安定化が望まれています。

水産業は水産物の持続的な供給に加え、加工・流通・造船など周辺産業を活性化させるほか、和食やレジャーといった文化的・教育的な機能も提供します。このように、北海道周辺海域の高い生産力を背景として、生態系サービス(自然の恵み)と水産業は、私たちの暮らしに無くてはならないものです。これらは、東日本大震災からの復興においても重要な視点と思います。

当所では水産業を中心とした現場との対話や他機関との連携を通じて、海や河川の環境と漁業資源のモニタリング・研究開発・技術普及・さけます類の個体群維持のためのふ化放流などに全力を挙げて取り組んできました。これからも自然と人を相手として、息の長い仕事をしっかり行い、その成果を社会に還元する所存です。今後とも皆様のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

生態系サービス(自然の恵み)の四大機能

供給

食料・水・燃料・生物・化学・遺伝資源

文化

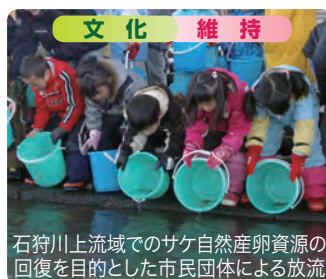
レクリエーション・エコツーリズム・癒し・審美・教育

制御機能

気候・水質浄化・洪水

維持機能

基礎生産・物質循環



水産総合研究センター 研究開発情報

北の海から

第20号

発行: 独立行政法人水産総合研究センター

編集: 独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所

〒062-0922 北海道札幌市豊平区中の島2条2丁目4-1

TEL: 011-822-2131(代表) FAX: 011-822-3342

URL: <http://hnf.fra.affrc.go.jp/> E-mail: www-hnf-info@ml.affrc.go.jp